

以下の行為は、実技試験において不合格や減点の対象となります。
一人でも多くの方が合格されるよう参考にしてください。

	不合格や減点の事例	理由・対処法
1	滅菌トレイの中をさわる。	トレイの内側をさわっては、滅菌した意味が無くなる。(さわった瞬間から滅菌状態ではなくなる)
2	滅菌トレイに未開封のプローブを袋ごと入れた。	滅菌トレイに置くことができるのは滅菌済みのものに限る。
3	滅菌トレイにツイザーを容器ごと入れた。	
4	滅菌の意味を理解していない。	「美容電気脱毛における滅菌・消毒について」を参照すること。
5	必要でない部分まで消毒し、時間がかかる。	限られた時間内に、脱毛中に触れるであろう部分だけを手際よく消毒すること。
6	エタノール消毒でモデルが真っ赤になっていた。	事前にお客様の状態(体質)を把握しておくことは、脱毛するための必須条件。エタノール以外の消毒剤で行なうべき。
7	手指消毒後に未消毒の場所に触れた。(例:未消毒のイス、ワゴンなど)	手指消毒の後にこのような状態になった場合は、ペーパータオルかティッシュペーパーを持って行く。
8	機械の確認をしていない。	機械の確認をフットペダルを踏み込んだ時に行なうのが鉄則。通電の有無、機械の変化に素早く対処することが出来る。
9	挿入が不安定。	しっかり固定しないと肌への負担と未処理につながる。プローブを挿入して電流を流している時、プローブを安定させて皮膚が平らなままであることを確認する。
10	方向・角度が違う	毛の方向は、1本の毛だけを見るのではなく、施術部位全体の毛流を見て判断する。毛孔から出ている毛の角度にプローブの角度を合わせる。
11	挿入が浅い。	皮膚表面への熱の影響が大きく、水疱などの皮膚トラブルの原因になる。また、熱原型が脱毛処理のターゲットからずれている。
12	・挿入が強引すぎる。	強引な挿入で皮膚が傷つき、プローブを押し付けることにより皮膚トラブル(水疱など)になり危険。くぼみができるような固定をすると、皮膚に圧力がかかる。プローブを完全に挿入し表皮が平らになるようにプローブを軽く戻すと、通電した時にプローブの深度が深くなるのを防ぐ。
	・皮膚にへこみが見られる。	
	・挿入時にプローブを押しつけている。	
13	挿入後、毛をつまむのが早い。	早くつまむのは、脱毛処理が完了しないうちに毛を引っ張ることになり、正しい脱毛が行なわれない。
14	挿入のやり直しが多く見られた。	一つの毛孔に対して、何度も挿入するのは毛の方向の見極めが出来ていない。また、そうすることによって皮膚をへこませる。
15	深度測定を理解していない。	何のために、深度測定を行なうかを理解しなければ、正しい脱毛が出来ない。(未処理になる。) ※深度測定とは、成長期後期の一番深い毛包を持つ毛を選んで脱毛し、適正な挿入深度を測ること。別紙「挿入深度測定方法について」参照。
16	脱毛のリズムが悪い。	脱毛サービスを提供する者として、無駄の無い脱毛を行なう。素早く毛を見極め、処理する。毛包から次の毛包へ、連続して挿入するのが理想的。処理をしている間に次の毛を探す。
17	オーバートリートメント	皮膚を損傷することなく脱毛することが基本。
		オーバートリートメントになる場合は即時、脱毛を中止する。危険な脱毛は行なわない。
18	ユニット計算が出来ていない。	アルカリユニットの判定とユニット計算が出来なければ、正しい脱毛は出来ない。(未処理になる。)脱毛に必要なアルカリユニットの判定と高周波の時間によって、直流電流値を決定する。 「美容電気脱毛実技理論」テキスト又は、「美容脱毛エステティシャン認定試験 テキスト・問題集」(ブレンド法のページ)を参照のこと。
19	プローブがツイザーに当たっていた。	ツイザーとプローブが接触すると高周波電流が影響を受けて、十分な脱毛効果が得られない。
20	施術中の姿勢(ポジショニング)が悪い。	施術の姿勢(ポジショニング)が悪いとプローブを持つ手にも負荷がかかり、スムーズな脱毛が出来ない。
21	緊張のしすぎ。 (手の震えが最後まで止まらない。)	試験官としても、あまり緊張させないように気をつけているが、仮に緊張状態であっても、通常の脱毛が行なえるように日頃から十分練習してほしい。
22	最後にプローブを外し忘れていた。廃棄容器以外のものに捨てた。	プローブは脱毛終了後に直ちに外し、廃棄容器に捨てること。
23	モデルの毛が細い毛や休止期の毛しかない。	技術の確認や脱毛後の肌のチェックがしづらい。受験においては、チェックを受けやすいモデル選びをすること。